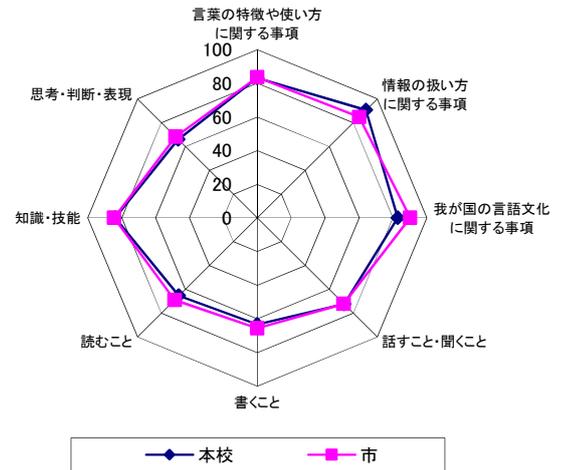


# 宇都宮市立田原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.2	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	90.6	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	82.8	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	72.4	72.1	67.8
	書くこと	63.3	65.5	51.8
	読むこと	65.4	68.9	57.8
観点別	知識・技能	83.9	84.4	80.5
	思考・判断・表現	65.9	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

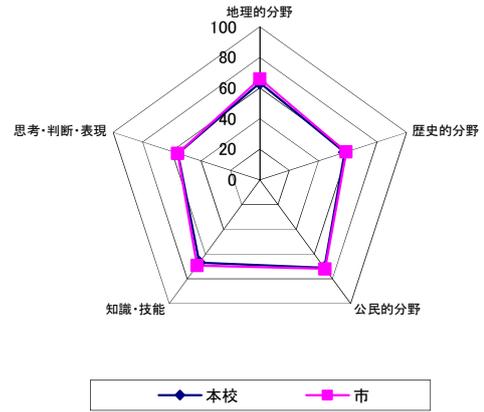
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>正答率は市平均を0.4ポイント下回っている。</p> <p>○漢字の読みでは全ての問題で、故事成語を選ぶ問題では、市平均を6ポイント上回った。</p> <p>●漢字の書きの問題では、「許す」「浴びる」の正答率が7割で、市平均を下回った。</p>	<p>・漢字を正しく読んだり書いたりするために必要な漢字の成り立ち、音読みと訓読み、部首の知識の3点を身に付ける指導を行っていく。</p> <p>・訓読みの漢字を書く問題が苦手な傾向があるので、小学校で学んだ漢字も含め、定期的に漢字テストを行う。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>正答率は市平均を5.6ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、情報を使う問題では、市平均を5.6ポイント上回った。</p>	<p>・複数の情報を読み取って思考する問題では、情報同士の関係を正確に読み取れるように指導していく。</p> <p>・問題に示されている解答の条件を整理し、正確に解答する力を養っていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率は市平均を7.4ポイント下回っている。</p> <p>●現代語訳を手掛かりに古文の内容を読み取る問題が、市平均を6.7ポイント下回った。</p>	<p>・古文の読解の問題では、読解の流れを整理し、「どんなことに注意しながら読み取りを進めていくか」が明確になるようにしていく。また、この指導と合わせて、読解に必要な知識の定着を図っていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>正答率は市平均を0.3ポイント上回っている。</p> <p>○話の展開を予測しながら聞く問題と、自分の考えが分かりやすく伝えるための表現の工夫を考える問題では、市平均を約1ポイント上回った。</p> <p>●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話し方の工夫を記述する問題では、市平均を1.2ポイント下回った。</p>	<p>・要点を捉えながら話を聴く姿勢を身に付けさせるとともに、問題文から文章の条件を正しく読み取る力を伸ばしていく。</p> <p>・記述問題に無回答の生徒の割合は、市平均を下回っていることから、今後も「書くこと」に対する抵抗感を減らす指導を継続していく。</p>
書くこと	<p>正答率は市平均を2.2ポイント下回っている。</p> <p>○自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する問題では、市平均を7.2ポイント上回った。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わるよう工夫して文章を書く問題では、市平均を8.4ポイント下回った。</p>	<p>・これまで、自分の考えについて根拠を明確に書く問題については、書いた文章を生徒同士で批評し合う取り組みを行ってきたが、今後は批評を受けた後、自分の文章を見直したり書き直したりする練習を行っていく。</p> <p>・図表やグラフから読み取った内容を書く問題については、モデルとなる型や文章を提示し、それをういて生徒自身が文章を書く演習を取り入れていく。</p>
読むこと	<p>正答率は市平均を3.5ポイント下回っている。</p> <p>○説明的文章において、論理の展開の仕方を捉える問題では、市平均を6.8ポイント上回った。</p> <p>●説明的文章において、論理の展開の仕方を捉え、さらに別の資料を読み取ってキーワードを入れる問題では、市平均を24ポイント下回った。</p>	<p>・説明的文章については、段落ごとに読むようにし、接続語や指示語、文末表現などに留意し、筆者の主張やそれを支える具体例を捉えられるよう指導していく。</p> <p>・複数の情報を読み取って思考する問題を苦手とする生徒が多いことから、類題の演習を授業で行っていく。</p>

# 宇都宮市立田原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.4	66.0	57.8
	歴史的分野	57.9	58.9	51.4
	公民的分野	71.2	72.0	72.2
観点別	知識・技能	66.8	69.3	62.9
	思考・判断・表現	55.8	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

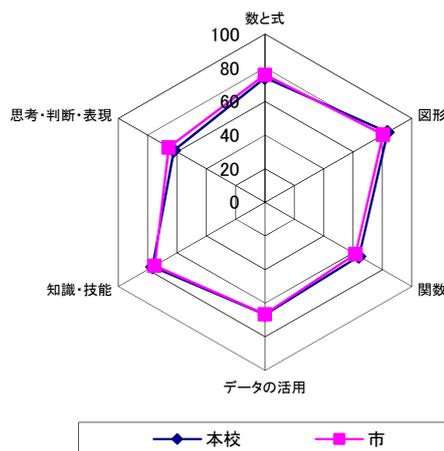
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>正答率は市平均を2.6ポイント下回っている。                      ○世界地図の図法の特徴とその読み取り方を理解して考察しているかを見る問題では4.3ポイント、東北地方・九州地方の産業と人口の特色についての理解をもとに統計データを解釈しているかを見る問題では13.2ポイント、市平均を上回った。                      ●本初子午線について理解しているかを見る問題では8.2ポイント、日本の各地方の地形の名称について理解しているかを見る問題では7.9ポイント、市平均を下回った。</p>	<p>・地図やグラフを読み取ったり、活用したりすることに優れている傾向にあるため、積極的に資料を用いて考えさせるなど、生徒のよさを生かした指導を継続していく。                      ・基礎知識の定着や活用に関しては課題があるため、小テスト等を通して、語句の定着や意味の理解から確認する学習を取り入れていく。</p>
歴史的分野	<p>正答率は市平均を1.0ポイント下回っている。                      ○江戸時代の対外政策を背景に伊能忠敬の功績について理解しているかを見る問題では6.4ポイント、徳川綱吉の政治における貨幣について適切な文章を選ばせ、資料を読み取れているかを見る問題では6.1ポイント、市平均を上回った。                      ●弥生時代に漢の皇帝から与えられた金印について理解しているかを見る問題では15.2ポイント、世紀の表し方について理解しているかを見る問題では9.9ポイント、市平均を下回った。</p>	<p>・歴史上の人物の実績について理解が深い傾向にある。文化史や政治史の学習の中で、個人の活躍と結びつけるなど、生徒の特性を利用した指導を取り入れていく。                      ・学習してから時間が経過しているものは正答率が低い傾向にあり、基礎知識の定着や活用が課題である。既習事項の振り返り小テストを行うなど、復習の機会をこまめに設けていく。</p>
公民的分野	<p>正答率は市平均を0.8ポイント下回っている。                      ○日本の少子高齢化にともなう年金の負担の変化について理解しているかを見る問題では6.5ポイント、フランス人権宣言の理念について理解しているかを見る問題では4.8ポイント、市平均を上回った。                      ●憲法改正の手続きについて理解しているかを見る問題では8.0ポイント、公共の福祉について資料をもとに自分の言葉で表現しているかを見る問題では4.6ポイント、市平均を下回った。</p>	<p>・図やグラフの処理にも表れている通り、視覚からの情報によく反応する特長がある。新聞記事やニュース番組、教科書の動画資料などを活用していく。                      ・経験に根差した知識の定着を目指すため、最新的话题を授業に織り込み、日常生活と学習内容を結び付ける授業デザインをしていく。</p>

# 宇都宮市立田原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.1	76.0	69.0
	図形	83.5	80.5	67.7
	関数	64.1	61.6	55.0
	データの活用	66.8	66.5	56.4
観点別	知識・技能	76.6	75.1	69.4
	思考・判断・表現	62.1	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

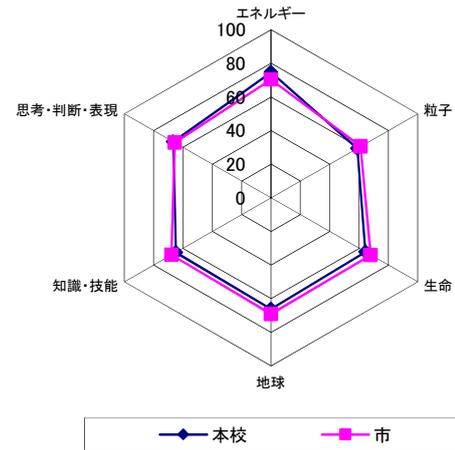
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は市平均を1.9ポイント下回っている。</p> <p>○「連立方程式の計算」問題では3.7ポイント、「数の性質の式で説明する」問題では3.9ポイント、市平均を上回った。</p> <p>●「根号を含む式の計算(加減)」問題では16.1ポイント、「連立方程式の利用」の問題では9.4ポイント、市平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平方根の計算や連立方程式の利用の復習に力を入れ、学習内容の定着に向けた指導をしていく。</li> <li>数の性質など式を利用して説明する力は、言語活動を通した学び合いの成果が見られることから、学年を越えて継続的な指導となるよう、学習スタイルや手立てにおいてよかった点や更なる工夫など、指導を充実させていく。</li> </ul>
図形	<p>正答率は市平均を3.0ポイント上回っている。</p> <p>○空間図形「ねじれの位置関係」の問題では7.4ポイント、「角が等しくなる根拠」を求める問題では4.5ポイント、市平均を上回った。</p> <p>●平面図形で「対称移動における対応する点」を求める問題では、市平均を1.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対称移動の他、平行移動、回転移動においても対応する点の位置関係を理解させるために、入試対策や学年のまとめのプリント演習で確認していく。</li> <li>暗唱カードの使用やICTを活用したグループ学習を取り入れ、生徒が証明への苦手意識をもたないよう工夫するとともに、学びのつながりを意識できるような振り返りを行い、既習事項を生かす授業づくりを今後も継続していく。</li> </ul>
関数	<p>正答率は市平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○1次関数「yの増加量」を求める問題では16.9ポイント、関数<math>y=ax^2</math>「yの変域」を求める問題では7.3ポイント、市平均を上回った。</p> <p>●動点「三角形の面積の変化」を求める問題では、市平均を15.7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動点による面積の変化については、シミュレーションを活用した授業を取り入れたが定着が不十分であったことから、変化の様子をより確実に学べるよう、図形の状態、グラフ、式を各場面で丁寧におさえ、動的な見方考え方につなげられるようにしていく。</li> <li>関数の基礎的な知識と技能を身に付けさせるために、まめテストを継続していく。</li> </ul>
データの活用	<p>正答率は市平均を0.3ポイント上回っている。</p> <p>○「袋から特定の球を取り出す」確立の問題では、市平均を5.5ポイント上回った。</p> <p>●「四分位範囲」を求める問題では、市平均を6.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四分位範囲などデータの分析に係る用語については、それらを正しく活用することも含め、指導していく。</li> <li>確率については、統計的確率から数学的確率への移行を、実験による検証や表や樹形図を使っての考え方と照らし合わせ、日常における様々な事象と結びつけながら、その理解と求め方を指導していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立田原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	74.6	70.3	59.4
	粒子	58.9	61.1	56.4
	生命	64.4	67.9	62.7
	地球	66.1	69.1	65.6
観点別	知識・技能	64.9	67.9	63.8
	思考・判断・表現	66.6	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

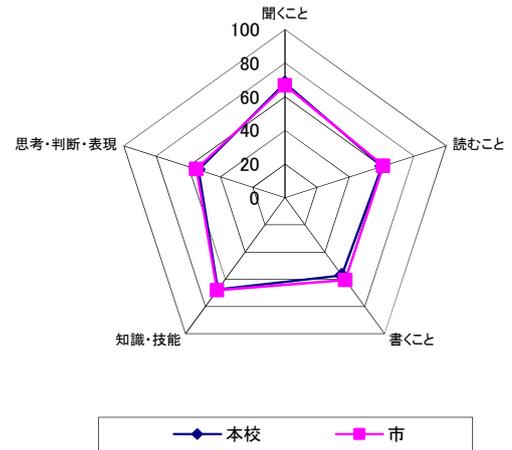
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>正答率は市平均を4.3ポイント上回っている。</p> <p>○エネルギーに関するほぼすべての問題で市平均を上回った。</p> <p>●カーブミラーに凸面鏡を利用する理由を求める問題では、市平均を0.7ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験をくり返し行い、基本的な概念を習得させていく。</li> <li>・応用的な記述問題に対応するために、学んだ知識を他に説明する活動を多く取り入れ、実験や観察にともなう理科学語などの知識の定着も含め、授業の中で振り返りをしっかりと行っていく。</li> </ul>
粒子	<p>正答率は市平均を2.2ポイント下回っている。</p> <p>○物質や性質を見分ける問題では市平均を上回った。</p> <p>●質量パーセント濃度やイオンの数、化学反応における質量の関係など、定量を求める問題の正答率が低く、14ポイント下回るものもあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもたせて実験を行い、基本的な概念を理解させるとともに、実験後にまとめや考察の時間を十分にとり、ワークシート等を活用しながら、自分の力でまとめられるよう指導していく。</li> <li>・粒子に関する理解を深めるため、実験の際には、変化する物質の量に着目させ、より定量的な議論を班で行っていく。</li> </ul>
生命	<p>正答率は市平均を3.5ポイント下回っている。</p> <p>○軟体動物や卵を産む動物の分類についての問題では、市平均を5ポイント以上上回った。</p> <p>●蒸散についての問題では、市平均を16ポイント下回ったものもあった。</p> <p>●遺伝について語句を答える問題では、市平均を2ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリル学習を繰り返し行い、基本的な内容の定着に結びつけていく。</li> <li>・特徴や性質を覚えるだけでなく、観察や演示の中で着眼点を提示し、理由や利点をよく考えさせ、論理的に説明する活動を取り入れていく。</li> </ul>
地球	<p>正答率は市平均を3ポイント下回っている。</p> <p>○マグニチュードと震度の違いや地震の大きさと震源からの距離に関する問題では、市平均を5.7ポイント上回った。</p> <p>●気象に関する問題では、大気圧の理解については市平均を12.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概念形成の場面では、丁寧に説明し、演習問題などを往復しながら、基礎的・基本的な内容の理解につなげていく。</li> <li>・自然豊かな立地を生かし、身近で分かりやすく素材を準備し、実感を伴った理解となるように積極的に実験を行っていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立田原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	68.1	66.8	61.5
	読むこと	60.1	60.9	55.5
	書くこと	57.2	60.5	50.9
観点別	知識・技能	67.7	68.1	64.1
	思考・判断・表現	53.7	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は市平均を1.3ポイント上回っている。</p> <p>○対話を聞き、その内容を理解して適切に応答する全ての問題で市平均を上回った。</p> <p>●英文を聞き、その要点をとらえて自分の考えを書く問題の正答率は2割台と低く、市平均を1.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文を聞く前に問題をよく読ませ、推測しながらリスニングをすることができるように指導していく。</li> <li>・音読練習を十分にさせるとともに、英語を口頭で答えさせる活動を多く取り入れていく。</li> </ul>
読むこと	<p>正答率は市平均を0.8ポイント下回っている。</p> <p>○対話文の情報を読み取り、その内容を理解する問題では、市平均を6.9ポイント上回った。</p> <p>●メールを読み、その概要をとらえて英文を完成させる問題では、市平均を10.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文の内容を理解するために必要な語彙については、単語テスト等を継続的に行い定着を図っていく。</li> <li>・基礎・基本の定着を図るために、文構造を理解するための音読を繰り返し行っていく。</li> <li>・長文問題への対応については、教科書の本文読解をする際にワードリストを配布し、それを参考にしながら自分の力で内容を理解する場を多く設けていく。</li> </ul>
書くこと	<p>正答率は市平均を3.3ポイント下回っている。</p> <p>○自分の考えや意見について、具体的な理由や説明を交えながら相手に伝わるように英文を書く問題では、市平均を3.2ポイント上回った。</p> <p>●自分の考えや意見をまとめた内容で紹介する英文を相手に伝わるように書く問題では、市平均を4.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力については「読むこと」と同様に単語テストや英作文テストを継続的に行うことで定着を図っていく。</li> <li>・英作文については、新出表現だけでなく、既習表現についてもドリル的に書く練習を習慣的に行う。そして、その中から自分の使える文型を用いて、自分の考えや気持ちを書く機会を多く取り入れていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立田原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
意欲を高める教材や問題提示の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を生かしたためあてを提示する。</li> <li>生徒の考えを引き出し、考えを深められるよう発問を吟味する。</li> </ul>	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に対する肯定割合は、1.3年生で市平均を上回っている。また、「学習していて、おもしろい、楽しいと感ずることがある」の質問に対する肯定割合は、全学年市平均を上回っている。これらのことから、概ね学習に対して前向きに取り組むことができていると考えられる。
根拠をもって考え、伝え合う活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書いたり、まとめる時間を確保する。</li> <li>自分の考えの理由や根拠を明確にして、相手を納得させる書き方や話し方ができるよう、伝え方の工夫をする。</li> </ul>	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の質問に対する肯定割合は、2年生は市平均を上回っているが、3年生は市平均と同等、1年生は市平均を下回っている。今後は、話し合いのモデルを示したり、書き方の型を示したりするなど、自分の考えの伝え方について、指導を工夫していくことが必要である。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

次年度の重点目標を「自ら学ぶ意欲と習得した基礎的・基本的な知識及び技能を活用して課題解決することができる力の育成」とし、次のことに取り組む。

- ・「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問に対する肯定割合は、2.3年生は市平均を上回っているが、1年生は市平均を下回っていることから、生徒が自ら学習に取り組む姿勢や各教科の基礎・基本を確実に身に付けさせる指導を徹底していく。
- ・生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を学習活動に適切に位置付け、特に振り返りについては、今後も文章で書かせる活動を計画的に実践していく。
- ・「宇都宮モデル」を活用した授業改善(本時のねらいの確実な提示【はっきり】とねらいに基づく振り返り活動の徹底【すっきり】、生徒の考えを引き出し、思考を深める発問の工夫【じっくり】)を行い、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けた指導を工夫していく。
- ・理解の状況に応じた繰り返し指導や習熟の程度に応じた指導など、個々の応じた指導を充実させる。
- ・教師が授業の中で身に付けさせたい学習内容をまとめたり、生徒が学習内容や思考過程を振り返ったりする場を適切に設定するとともに、根拠をもって考え、伝え合う活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導を継続していく。
- ・互いを認め合い、協力・協働して課題に取り組む学び合いを充実させるために、グループ活動や発表の場面などにおいて、活動が深まるよう教師がコーディネート工夫する。